

「あぶら山さまさま。」

ものが、とうさまにもぶらくみをたのまれた。 らだけを、あぶらざらに たいせつに くんで かえったと。 こんこんと ゆきが ふりつもる 日、一平と いう とがらせて 村人は 手を あわせ、その 日 ひとばんぶんの 一平は、ロ あぶ

「いくよ、いくよ。でも、こんな さむい 日に、まいばんな んて いやだ。なん日ぶんも、いっぺんに(くめば ()

「それは ばん つかうぶんしか () かん。あの あぶらは、どこの いえでも くんで こない やくそくに その

12 だあれも したを とうさまに なべ かく いるのじゃ。 やって 出して、 した。 1) いないのを つぱ そして、 きた しかられて、 いに 竹やぶに さいわい ぺろりと あぶらを 一平は、 そっ あぶ

「おれは ところが なんて ある きた タがた、 かしこい ところを、となりの 一平が んだろう。 なべ 11 いさまに つ ば 1 12 見つ あぶ

7 「ややっ、 「なくなるものか。ためしに じ まも、 へらへら くなったら、 しまった どうだい。 大きな なべで あぶら山の 一平。そんなに わらって どうする。 あと、 となりの あぶらが 一平が あぶらを いさ 1 4 な



さまは

かんがえた。

(ふ
な。

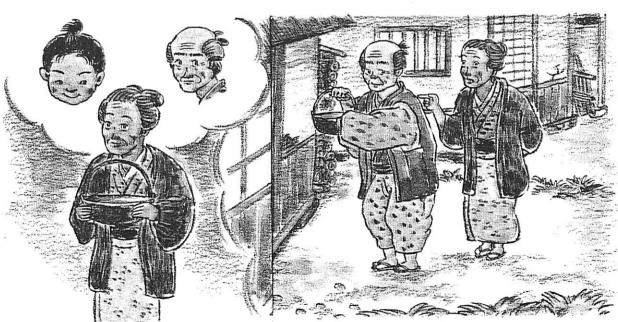
一平の

いうのも

さまに 見つかって しもうた。 で そこで、じいさまが こそこそと、なべに かえって きたら、 なんと、その また となりの あぶらを ばあ

「い、いや、一平も くんでおってな。しかし、あぶらは なくならん。ばあさまは、目を まるくだが、ひとりごと。したが、ひとりごと。

まも やってる こと。わたしも ひとつ 大きななべで……。) なべで……。) みんなが なべを かかえて みんなが なべを かかえて





く なって しもうたと。 なく なり、村は すっかり さびしら山からは、一てきの あぶらも 出こうして しばらく たつと、あぶ

①主題設定の理由

(ねらいとする価値について)

きまりは、集団生活を円滑に送るためにつく られたものであるが、ときには、個人の都会や 利益と対立することがある。しかし、 集団の成 風がきまりを守らなければ、個人も平穏な生活 を送ることはできない。社会生活を送っていく 上で規則やきまりを守ることは、大切なことで ある。みんなで使う物を大切にし、他人に迷惑 をかけない態度は、集団生活を楽しく豊かなも のにしてくれる。さらにきまりは、みんなのた めのものであるとともに自分のためのものでも あることに気付かせ、公徳心や社会規範を守ろ うとする態度を育てたい。

〈子どもの実態について〉

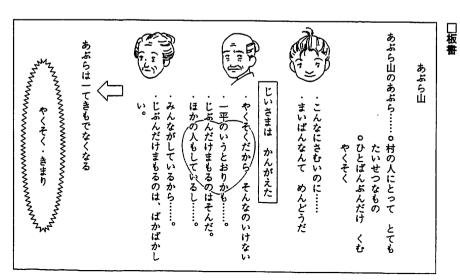
学校生活の中で、たくさんのきまりは、集団 生活をする上で必要なものであることを子ども は理解している。しかし、まだ自己中心性が強 く、自分勝手な行動をとることが多い。

いけないこととわかっていながら、面倒だか らとか誰も見ていなければわかりはしない。と いった気持ちを抑え、約束やきまりを守り明る い心で過ごそうとする態度を登いたい。

〈資料について〉

夜の電灯がわりになっていた油を あぶら山 から一晩分だけ汲む、という村のおきてを破っ て、一平はそっと何日分もの油を汲んでくる。 それを見た村人たちも、まねて次々と汲んでし まい、とうとう油山から一滴の油も出なくなっ てしまったという話である。気持ちのよい集団 生活を送るためには、公共物を大切にしなけれ ばならないことや、公共物を使う上では、「他 の人もやっているから | 「だれもみていないか ら」といった独りよがりな理由で約束事を破る ことは、社会生活全体をも乱して取り返しがつ かなくなることもあることを理解させ、規則や きまりを守ることの大切さに気付かせたい。 2ねらい

みんなが使う物を大切にし、約束やきまりを 守ろうとする心情を育てる。



3)展開 支援上の留意点 ж. 舐 習 活 (1) 暗くした部屋で、明かりを灯し、明かり取りのためのあぶ らがどういうものであったか話し合う。 o 暗い中でのこの明かりについてみんなはどう思います がもてるようにする。 か。 ・明るいなあ。 ・真っ暗だと何もできない。 (2) 資料「あぶら山」を瞭み、話し合う。 ① 一平は、どうしてとうさまの雷いつけを守らなかったの でしょうか。 ・こんなに寒いのに、何度も行くのはいやだ。 ・毎晩汲みにいくなんて、面倒くさい。 ・雛も見ていないから、分からないだろう。 ② 「じいさまは考えた。」とは、どんなことを考えたので 1. + 3. ・一平のいうとおり、あぶらはなくならないかも。 ・でも、一晩分だけという約束がある。 ③ じいさまや、ばあさまは、どんな気持ちで鍋いっぱいあ ぶらをたくさん汲んで帰ったのでしょう。 ・わたしだけでないから……。 ・他の人もしているのに、自分だけ守るなんてばかばかし

- ④ 一滴のあぶらもでなくなったとき、どんなことを思った のでしょう。
- ・困った、あんなことするんじゃなかった。
- ・約束を守っていればよかった。
- ・自分がしなければこんなことにはならなかった。
- (3) 自分たちの生活を振り返る。
 - 0 みんなが使う物をどのように使っていますか。
 - ・ブランコで遊ぶときは、交代している。
 - ・水道の水をむだづかいしないようにじゃ口をきちんとし めている。
- (4) 教師の説話を聞く。

電灯のない時代の明かりとし て大切にされたあぶらであるこ とを知らせ、資料への興味関心

- 主人公の気持ちに共感できる ようにする。
- ・ どうしようかと迷う心の葛藤 に体験を重ね合わせて考えるこ とができるようにする。

(葛藤劇を取り入れてもよい)

- 二人とも自分さえよければよ い、自分だけ守るのはばからし いといった気持ちをもっている ことに気付くことができるよう にする。
- 白分たちにとって、約束やき まりを守るということはどうい う意味があるのかを考えること ができるようにする。
- ・ 様々な経験を思い出してみる ことができるように助言する。
- そのときの気持ちも言えるよ うにする。

(心のノート P68~71)

離も見ていない所でも、きま りを守って、みんなが使う物を 大切に使っている子どもの話を する。